

しが教育のつどい2020 シンポジウム

# 今、滋賀の学校ってどうなん？

## ～子どもも先生も楽しい学校を求めて～

滋賀県の現役の小学校・高校・特別支援学校の教員が保護者を交えて、  
本音で語ります。今、学校ってどうなん？ いっしょに考えましょう！

初任の時と変わらず、今でも迷い続けて…

滋賀の先生たちが繋いできたわくわくする実践に挑戦し1年生の子どもたちと一緒に作文を読み合うことを楽しんでいます。

一方で、日々の授業をどうすればいいのか？毎日起こる子どもの喧嘩の対応は？ 保護者に理解してもらうには？ 初任の時と変わらず、今でも迷い続けています。規律が子どもを苦しめてない？ 競争させるって本当に良いこと？子どもたちにとって本当に大切なものは何かということを考え続けたいです。

パネリスト  
小学校教師3年目



元気をもらえることもあれば、悩むことも多い毎日

子ども達が見せる姿に、元気をもらえることもあれば、どう対応していったら良いか悩むことも多い毎日。社会から求められる価値観と子ども達が見せる姿のギャップをどう解決していったら良いか…。

日々の業務に追われる中、その場で判断や対応が求められることも？ 大事にしたい観点、つながりをどう作るか、といったことを様々な意見を聞かせてもらいながら深めていきたいです。

パネリスト  
特別支援学校  
高等部主事



コーディネーター  
福井雅英さん

滋賀県立大学教授  
滋賀県内で小・中学校教師  
31年。専門は臨床教育学、  
教師教育、日本教育史。

先生だけでなく子どもも  
保護者もいっしょに

今の時代に、先生も子どもたちも幸せになれる教育の場作りをやっていきたいな。それは先生だけでやるんじゃなくて、子どもたちも保護者も一緒に考えて、海外の事例なんかも勉強して自分たちのスタイルを考え出せたらきっと楽しいですね。

子どもたちに教えられる時代がきました。子どもたちは大人たちが信用できないと思っています。夢や希望を語るだけで終わらずに行動をおこしていきたいですね。

パネリスト  
保護者



パネリスト  
工業高校2年担任

あまりにも生徒の直球を受けすぎて…

先生も先輩も後輩も生徒にも同じように接する。素な自分で勝負する。あまりにも生徒の直球を受けすぎてどうして良いのか困ることがある。そんな私です。

クラスの生徒39人とどこまできちんとできているのか、と悩ましい毎日を送る。事務的な仕事やこうあらねばならないということに追いまわられながら、日々奮闘しています。

入場無料  
どなたでも  
ご参加いただけ  
ます

2020年1月26日

9:30～11:45

受付 9:10～

能登川コミュニティーセンター

東近江市躰光寺町262 TEL0748-42-3200  
(能登川中学校の前です)

主催：滋賀教育のつどい実行委員会  
520-0052滋賀県大津市朝日が丘1丁目11-3  
滋賀県教育文化会館内 全滋賀教職員組合 TEL077-522-4965

## 1. 苦しい、生きづらい社会・学校の中で

若い先生からこんな声が聞こえてきます。「ちゃんと言うことを聞かさない」「みんなと同じにしなければ」「早く一人前にならない」「周りの目が気になる」。

掲示物の位置、めあての書き方、宿題の出し方まで揃えようとする〇〇スタンダード。「がってんプリント」や「学び確認テスト」など、得点を上げるためにやらされる学テ対策。はみ出す子どもを排除してしまうゼロトレランス。社会に役立つ人材をつくるための「職業教育」や資格取得教育。受験学力を付けるための小テスト・補習・課題漬け……。余裕の無い働き方、さまざまな評価の目にさらされた職場の中で、滋賀でも「職場にパワハラ、いじめが蔓延している」という悲痛な声が寄せられています。

子どもたちは「学校で本音は言えない」「周りを見てキャラを演じてる」「学校に行きたくない。勉強したくない。でも行かなあかん」と追い詰められています。ある高校生は、「何かをしようとしたとき、ブレーキをかけようとする『社会』の存在に気が付いた。パーキングエリアのない『高速道路』を走らされている感覚にも気が付いた。周りの友だちは『人に合わせて生きなければならない』というプレッシャーの中で生きている。」と述べています。

## 2. 今、日本の自由や民主主義はどうなっているのでしょうか

今、日本の社会はどうなっているのでしょうか。「自由」がなくなってきたと感じませんか。愛知で「表現の不自由展」が様々な圧力に屈する形で一時中止に追い込まれました。学校では教育内容や授業内容・授業方法にいたるまで管理統制されて「自由」がなくなっています。

「民主主義」はどうなっているのでしょうか。11月1日に大学入学共通テストへの英語の民間検定活用が延期されました。利益を得る民間業者の入った会議で活用が決まったもので、高校や大学の現場から要望があったわけではありません。12月4日、教員に一年単位の变形労働時間制導入を可能にする法案が参議院で可決されました。現場が求めてもいないのに、超過勤務の実態を覆い隠す法案が成立したのです。今の政府は教育だけでなく、多くの分野で国民の声を無視して強引な政治運営をしています。そして、国民が望みもしない「憲法改正」を行おうとしています。さまざまなところで「民主主義」が劣化しています。

効率優先、自己責任、評価主義、競争主義、管理主義……。自由や民主主義を奪い、働き方をおかしくし余裕をなくしていく社会の中で、学校の息苦しさも増しているのです。

## 3. 教育のつどいで大切にしたいこと～ホッとすると同時に明日への希望が持てるような場に～

「しんどくて流されてしまう。」「弱音を吐けるところがなく声なんて上げられない。」「一人ではとてもむり……。」「そう、一人ではとてもしんどい。こんな今だからこそつながることが大切です。この教育のつどいがつながりの一歩になってほしいと願っています。

今おかしいことに声を上げている人たちがいます。それが事態を動かすことにつながっています。「表現の不自由展」は再開されました。英語民間検定の入試活用は延期になりました。

先の高校生はこうも述べています。「こんな社会がおかしいと思い、社会を変える生き方に踏み出したいと思うようになった。こんな考えを持った人はまだまだ少数派かもしれないし、抵抗も強いと思う。だけど、それでも私はずっと『反抗』して生きていきたい」。

先生にはこんな願いがあります。「もっと寄り添って待っていてあげたい」「周りを気にせず自由に教えたい」「こんな働き方っておかしい」「自分の子も学校の子も大事にしたい」。

そんな一人ひとりの願いや想いを大切に、子どものことを話し合うこと、実践をまとめること（レポートを書くこと）、大切にしたいことを確認しあい形にしていくこと。それができる「教育のつどい」にしていきましょう。「あ、もっと子どもを待ってあげていいんだ、寄り添っていけばいいんだ、これでいいんだ」とホッとすると同時に明日への希望が持てるような場にしていきましょう。

○平和で民主的な社会の形成者・主権者を育てる教育をつくりましょう

○「成長しようとする子どもへの信頼」を大切にしましょう

○管理と競争の教育ではなく、「子どもたちのいのちと人権、個人の尊厳を守る教育」「平和を守り真実をつらぬく教育」「目の前の子どもから出発する教育」「一人一人が大切にされる教育」をともに創っていきましょう